

宮島略年表

593 (推古天皇1)

厳島神社の社殿創建と伝えられる。

佐伯鞍職が赤い帆の船に乗ってやって来た市杵島姫命を先導し、現在地に鎮座された。

806 (大同1)

弘法大師・空海、厳島弥山を開基したと伝えられる。

811 (弘仁2)

「日本後紀」に「伊都岐島名神」の名が出る。厳島神社の文献的初見。

859 (貞観1)

1月27日、伊都岐島神、正5位下より従4位下に進階。

3月26日、伊都岐島中子天神が従5位下になる。

867 (貞観9)

9月13日、伊都岐島神、従4位下より従4位上に進む。伊都岐島小専神、正6位上より従5位下に進む。

927 (延長5)

「延喜式」完成する。その神名帳に、速谷神社・伊都岐島神社ともに、名神大と記載される。

940 (天慶3)

2月、藤原純友の乱の平定にあたり、追捕祈願のため伊都岐島神正4位下に昇叙される。

1146 (久安2)

2月、平清盛が安芸守に補任される。「公卿補任」)

1160 (永暦1)

8月5日、平清盛、厳島神社に参詣する。「山槐記」この参詣が最初か。

1164 (長寛2)

4月21日、清原清末、佐東郡若狭郷内の田島栗林6町を寄進する。以後厳島社への荘園の寄進が相継ぐようになる。

9月、平清盛と一族、法華経(平家納経)を書写して厳島神社に奉納する。

1166 (仁安1)

平清盛、山県郡志道原荘を厳島に寄進する。

1168 (仁安3)

現在のような厳島神社社殿が造営される。

11月、神主佐伯景弘が今後は安芸国の主導によって造営されることを願い出る。

1174 (承安4)

3月19日、後白河法皇、建春門院・平清盛らと厳島社に参詣する。「玉葉」・「百練抄」)

1175 (安元1)

7月13日、九条兼実、平宗盛の依頼で、鳥居の額字の揮毫(きごう)を承諾する。

1177 (治承1)

6月18日、九条兼実、厳島社の鳥居の額を平宗盛に届ける。

10月14日、平清盛・時子・中宮徳子・重盛ら平家一族社参し、社殿内・廻廊で千僧供養を行う(「千僧供養日記」)。

1179 (治承3)

2月、厳島社を22社に加えようとする廷議があり、2月及び11月の上申日を祭日と定められる。「百練抄」)

3月、左近衛大将徳大寺実定ら、参詣する。

1180 (治承4)

3月、平清盛、高倉上皇・建礼門院他一族とともに参詣。「高倉院御幸記」土御門通親)

9月18日、厳島で大地震。「山槐記」)

1183 (寿永2)

3月20日、佐伯景弘、飾太刀箱・松喰鶴小唐櫃を奉納する。

1185 (寿永4)

3月、壇の浦の合戦。

1187 (文治3)

7月、佐伯景弘、源頼朝の命を受け、宝剣を長門海中で探索する。

1207 (承元1)

7月3日、厳島社炎上。

8月21日、安芸国を厳島社再建料所とし、再建することとなる。

1215 (建保3)

12月19日、内宮(厳島)の再建終り、遷宮を行う。

1221 (承久3)

周防前司藤原親実を厳島神主とする。

1223 (貞応2)

12月2日、厳島神社再び炎上する。

1224 (元仁1)

9月13日、朝廷、安芸国を厳島社に寄進し、国司に社殿を造営させる。

1235 (嘉禎1)

4月、厳島社の社殿の造営を急がせるために、安芸国を8年間造営料所とし、5月周防前司藤原親実を安芸国守護とする。

1236 (嘉禎2)

10月13日、外宮(対岸の地御前)の遷宮を行う。

1240 (仁治1)

11月2日、將軍藤原頼経、太刀を奉納する。

1241 (仁治2)

7月19日、内宮の遷宮を行う。

1250 (建長2)

8月2日、熊野三郎、法華経16巻を盗む。

1278 (弘安1)

一遍、参詣。「一遍聖絵」)

1286 (弘安9)

10月、大鳥居再建される。

1287 (弘安10)

一遍、再び参詣(「一遍聖絵」)。この時の様子が、「一遍聖絵」に描かれており、この絵が厳島神社の絵画としての初見。

1293 (永仁1)

3月20日、將軍久明親王、厳島神社で異国降伏祈禱を行い、大般若経を転読、神楽を奏させる。

4月16日、幕府、厳島神社に剣・弓矢を献じ、異国降伏を祈願する。

1325 (正中2)

6月25日、大鳥居、大風により転倒する。

1330 (元徳2)

備後国歌島西金寺の比丘尼ら、華嚴経・大集経などを書写し奉納する。

1336 (延元1・建武3)

5月、足利尊氏、厳島社へ安芸国造果保を造営料として寄進する。

1366 (正平21・貞治5)

3月、筑前博多の商人ら、鑄銅製釣灯籠を厳島神社に寄進する。

1370 (建徳1・応安3)

9月、今川了俊、九州探題として赴任する途中で、参詣する。

1371 (建徳2・応安4)

4月、大鳥居を再建する。(広島市佐伯区利松・廿日市市宮内などから材木を運ぶ)

1376 (天寿2・永和2)

10月13日、弥山御堂神護寺(大日堂)が造立される。

1381 (弘和1・永徳1)

7月1日、大内義弘、造営料として安芸国志芳庄二分方地頭職を寄進する。

1384 (弘和4・至徳1)

4月22日、幕府、今川了俊に命じて、厳島社領の押妨を止めさせる。

1389 (元中6・康応1)

3月11日、足利義満、社参する。「厳島詣記」)

1399 (応永6)

12月、厳島神主、大内義弘に従って堺に籠城し、敗れて幕府に降る。義弘敗死する。(応永の乱)

1407 (応永14)

7月、五重塔建立。

1471 (文明3)

5月20日、棚守安種、左舞師に任せられ、8月22日に天王寺楽人太秦広喜より舞を伝授される。

1507 (永正4)

12月15日、大内義興、前將軍足利義植を奉じ

- て安芸国に入り、堺・京都に向かう。この時も神主興親従って東上する。
- 1508 (永正5)
12月、神主興親、京都にて病死する。
- 1515 (永正12)
神領衆、東西に分かれて神領の支配権を相争う。東は穴戸氏以下**桜尾城**(廿日市市桜尾)に拠り、西は新里氏以下**藤掛城**(廿日市市)に拠る。銀山城(広島市安佐南区)城主武田元繁は、東党を援ける。
3月、堺の商人ら、絵馬「三十六歌僊之図」を奉納する。
- 1518 (永正15)
大内義興、京都より帰国して神領の争論を裁決し、神主を定めず、神領に直臣を配置する。
- 1523 (大永3)
閏4月11日、**友田興藤**、武田光和らの協力により桜尾城に入り自ら**厳島神主**となり、各所で大内氏の派遣軍を追い下す。
6月、多宝塔建立。
8月18日、大内氏の武将弘中武長、水軍を率いて**厳島**を襲い、興藤派の**厳島衆**・番兵を追放する。
- 1524 (大永4)
春、**大内義興**は大軍を率いて安芸に入り、銀山城・桜尾城の攻撃を意図する。
6月、義興父子**厳島**に来島し、「勝山」に館を建てて滞在する。
- 1525 (大永5)
1月、**大内義興**、社参し太刀や銭を寄進する。その後義興は、28(享禄1)年まで**門山城**(廿日市市大野)に在城し、大内氏の兵安芸国に転戦する。
10月、大内・友田氏の和議がなり、興藤の兄の子**藤太郎**を神主とする。
- 1528 (享禄1)
7月20日、病死の**藤太郎**に代わり、興藤の第四郎を神主**広就**とし、義興と対面する。
- 1537 (天文6)
12月、**厳島神社**の廻廊、大國社以西焼失する。

- 1539 (天文8)
大願寺道本の使者として、**尊海**が一切経を求めて**大内義隆**の書を携えて朝鮮半島に渡る。
- 1540 (天文9)
10月13日、**棚守房顕**、岩国で**大内義隆**に会う。
- 1541 (天文10)
1月12日、桜尾城主**友田興藤**、大内氏に叛し、村上水軍を招いて**厳島**を襲い、参詣の大内軍を敗走させる。
1月15日、黒川隆尚配下の大内水軍、村上水軍を追い**厳島**を回復する。
2月10日、**棚守房顕**、徳寿内侍に代わり大内氏の御師になる。
4月5日、**大内義隆**桜尾城を攻め、興藤は城に火を放って自刃する。友田**広就**は五日市城(広島市佐伯区)に脱出するが、8日攻められて自刃する。
4月18日、**大内義隆**父子社参する。
5月4日、紅葉谷川で土石流発生し、社殿の損壊激しく、周辺は土砂で埋る。
5月7日、**大内義隆**、外宮に参詣し太刀・馬を奉納する。
5月18日、**大内義隆**、銀山城を攻めて得た武田氏の什宝新羅三郎の鎧を奉納する。
7月5日、**大内義隆**、社家・内侍・供僧に扶持を加える。
- 1542 (天文11)
6月13日、**大内義隆**、舞楽装束を奉納し、長門国普光王寺の経蔵を、**厳島**に寄進する。
- 1546 (天文15)
6月、**棚守房顕**、高舞台の擬宝珠を奉納する。夏、**棚守房顕**上京し、伊勢・高野山に詣でる。
- 1547 (天文16)
11月18日、**大内義隆**を旦那として、大鳥居再建される。義隆、**尊海**の要請により、後奈良天皇の宸筆の額を贈る。
- 1550 (天文19)
8月**毛利元就**、吉田荘の小山75貫・西浦75貫を**厳島**に寄進する。
- 1551 (天文20)

- 1月、大内義長、大願寺の造営領を安堵する。
8月、**陶晴賢**、神領及び**厳島**を掌中におさめる。
- 1553 (天文22)
4月、**陶晴賢**、村上氏に対し、内海を通行する商人から**厳島**で駄別料を徴収することを禁止する。
- 1554 (天文23)
5月、**毛利元就**、防州と断絶し神領へ出陣し、己斐(広島市西区)・草津(広島市西区)・桜尾の諸城を奪取し、**厳島**の陶氏の番衆を追う。
8月24日、毛利氏、大願寺の造営領を安堵する。
- 1555 (弘治1) **厳島合戦**
10月1日、**毛利元就**がわずかの兵を率いて**厳島**に渡り、塔の岡に本陣をおいていた**陶晴賢**の大軍と戦い、陶晴賢をやぶる。毛利方は要害山を本陣としていたが、元就は島の北部包ヶ浦に上陸し、尾根を越えて紅葉谷に攻め込んだ。
- 1556 (弘治2)
4月、**毛利隆元**、天神社を建立する。
- 1559 (永禄2)
パスカル・ヴィレラ、堺への旅の途中宮島に立ち寄る。
- 1561 (永禄4)
10月、毛利氏一族、大鳥居を再建する(能美島大原・中村、仁保島や岩国から材木を運ぶ)。
- 1564 (永禄7)
3月、**毛利元就**、大湯屋を再興する。
- 1568 (永禄11)
観世太夫宗節ら来島。「江の中」に舞台を作り、神前で能を演じる。
- 1569 (永禄12)
狩野松栄、九州の太友宗麟を訪ねる途次に来島する。
- 1571 (元亀2)
6月、**毛利元就**死去(75歳)。
12月、本殿の造営が完成し、吉田兼右ら来島し遷宮を行う(元亀の遷宮)。
- 1577 (天正5)

- 毛利輝元**ら、輪蔵1宇を再建する。
- 1579 (天正7)
7月、周防都濃郡の庚申講衆12人、大聖院に石幢を寄進する。
- 1581 (天正9)
2月、島廻りを5回行う。
- 1582 (天正10)
4月、来島氏が叛意につき、宝蔵の神物を桜尾に移す。
7月13日、輝元、周防玖珂本郷30石を**厳島社**に寄進する。
- 1583 (天正11)
3月13日、輝元、**厳島中掟**を定める。
神社周辺への建物新築の禁止、浄土真宗の禁教、火災時の処置などを定める。
- 1584 (天正12)
5月、仁和寺**任助法親王**来島、11月入滅。
- 1587 (天正15)
1月**豊臣秀吉**、九州出陣につき、**厳島**に禁制を下す。
3月秀吉社参し、**安国寺惠瓊**に命じて大経堂(千畳閣)を造営させる。
7月、細川藤高来島。(「九州道の記」)
- 1591 (天正19)
4月、広島城完成し、輝元入城する。
- 1592 (文禄1)
文禄の役。**厳島**に舟奉行を定めて継ぎ舟を置き、大坂・名護屋間の運輸の一環とする。
- 1594 (文禄3)
6月、**石田三成**、来島する。(「九州下向記」)
- 1597 (慶長2)
慶長の役。朝鮮出兵のため、神領内の兵を徴発する。
- 1599 (慶長4)
4月、**毛利輝元**、弥山神護寺大日堂を再建する。
- 1600 (慶長5)
9月、関ヶ原の戦い
11月、**福島正則**、**厳島**に掟を下す。
- 1601 (慶長6)

- 3月、**福島正則**、広島に入城する。
5月、従来の厳島社領を没収し、代わって厳島社に祭料・扶持米など1350石を支給することとする。
8月15日、**福島正則**、厳島社参。
- 1602（慶長7）
5月、**福島正則**、平家納経を補修する。この時、願文・化城喩品・囑累品の表紙や見返絵は、**依屋宗達**によって手を加えたといわれる。
- 1605（慶長10）
福島正則、能舞台を建立する。
- 1619（元和5）
8月、**浅野長晟**芸備42万6000石を受封し、広島に入城する。
9月、**浅野長晟**、厳島に祭料・扶持米など1090石を支給することとする。
10月9日、**浅野長晟**、厳島に社参する。
- 1625（寛永2）
城下中島材木町の娼家を宮島に移す。
- 1628（寛永5）
3月24日、曼殊院良恕親王、厳島社に参詣する。
- 1632（寛永9）
4月、浅野家、宮島春市で黒羅紗・虎皮・白砂糖など外国貿易品を購入する。
- 1635（寛永12）
宮島が町奉行支配となり、奉行所が設置される。龍神左次右衛門、初代宮島奉行として着任する。
- 1637（寛永14）
12月、島原の乱につき、厳島九右衛門の舟、軍兵用8端帆廻船として徴用される。
- 1643（寛永20）
林鷲峰、『日本国事跡考』を著述する。この書物に、松島・橋立とともに厳島が、三景の名こそないものの、「三處の奇観」と記される。
- 1646（正保3）
5月、宮島在住の渡部次郎右衛門、キリシタン宗門の疑いで江戸送りとなる。
- 1648（慶安1）
11月、第2代藩主**浅野光晟**、平家納経外箱を補修する。
- 1655（明暦1）
宮島伐出新運上銀を徴収する。
- 1666（寛文6）
11月、第3代藩主**浅野綱晟**毎月1夜ずつ108基の灯笼に点灯するよう、10石を寄進する。
- 1680（延宝8）
11月、第4代藩主**浅野綱長**、能舞台（現存の能舞台）を造立する。
- 1681（天和1）
藩主の御座船完成し、「厳島号」と命名する。
- 1684（貞享1）
6月、大淀三千風、諸国行脚の途中来島する。
- 1685（貞享2）
貝原益軒、「東路記」に「日本三景」の語を記す。
- 1692（元禄5）
宮島奉行の請いにより、広島藩、宮島3月祭礼市を再開する。
- 1697（元禄10）
3月、小島常也『厳島道芝記』を著述する。板行は1702（元禄15）年。
同月、藩主の御座船、「宮島丸」ができる。
- 1701（元禄14）
台風の襲来で、管絃祭の御座船遭難する。江波・阿賀の舟が救助したと伝えられる。
- 1711（正徳1）
6月、広島紙屋町の町民、管絃祭の際の「雨具御用船」を寄進する。
同月、城下からの**おとちぶね**の御供舟始まる。
- 1712（正徳2）
2月7日、鴻池善右衛門父子、宮島来島。
毛利氏を中心とした筆記「陰徳太平記」刊行される。
- 1713（正徳3）
寺田臨川、「耕稼の状」を社殿に掲げる。
- 1715（正徳5）
5月、厳島光明院の僧侶信ら、「厳島八景」を選ぶ。

- 1717（享保2）
宮島出身の力士霧島十五郎、5人扶持で藩に抱えられる。
- 1725（享保10）
6月17日、僧似雲、諸国遊歴の途中来島する。
- 1736（元文1）
水害により流出した土砂で、御手洗川の河口に松原を築く。
- 1739（元文4）
9月、第5代藩主浅野吉長、大鳥居を再建する（櫛は広島市広瀬・船越、府中町、下浦刈町から運ぶ）。
- 1740（元文5）
宮島での富くじ興行を禁止する。
- 1741（寛保1）
8月26日、宮島松粉製造を禁止する。
- 1742（寛保2）
2月27日、疫病流行につき、厳島社で祈禱を行う。
- 1743（寛保3）
城下中島町の町人4人、厳島神社前に新堤50余丈を築出し、108基の石灯笼と1基の大石灯笼を寄進する。西松原の原形ができる。
- 1750（寛延3）
8月、蝗害発生につき、厳島社で祈禱を行う。
- 1753（宝暦3）
8月、天候不順のために藩内各地で虫害発生。厳島社で祈禱を行い、舞楽を奉納し、霊符を領内に配布する。
- 1757（宝暦7）
あおのりさか青海苔浦で大火、山林を焼失。
- 1760（宝暦10）
7月1日、厳島社で五穀成熟の祈禱を行い、領内に霊符を配布する。
- 1762（宝暦12）
3月3日、広島藩、宮島市立ての際の厳島社宝物の展覧を許可する。
5月10-18日、厳島社で、雨乞い祈禱を行う。
- 1767（明和4）
11月6日、長久保赤水、長崎への公用の途中来島する。
- 1771（明和8）
10月28日、第7代藩主浅野重晟大絵馬（竹村随翁画）を厳島社に奉納する。
- 1772（安永元）
5月、広島藩、管絃祭に集まる御供船の飾りが華美になることを禁止する。
- 1774（安永3）
宮島での富くじ興行、毎年2度ずつ許可される。
- 1776（安永5）
5月、藩主浅野重晟、反橋を再建する。
7月7日、大鳥居に落雷し、倒壊する。
- 1778（安永7）
広島藩、管絃祭の御供船の飾りが華美になることを禁止し（5月）、船飾りに関する規定を作る（6月）。
10月、広島城下5組の町年寄り、宮島富くじの興行停止を願い出る。
- 1779（安永8）
9月、藩主浅野重晟、高舞台を再興する。
- 1783（天明3）
4月15日、宮島の富くじ、難渋のために再興が許可される。
4月16-19日、古川古松軒、西国遊歴の途中来島する。
- 1784（天明4）
誓真、幸町に井戸を掘る。以後魚の棚町（天明7）、**港町**（寛政2）、**西連町**（寛政7）など町内各所に井戸を掘り、「**誓真釣井**」として現存している。
- 1785（天明5）
東東洋、長崎への遊学の帰途、来島し、絵を描く。
- 1787（天明7）
2月20日、**養父崎**より出火、22日まで青海苔浦・須屋浦・御床浦などに延焼する。
4月5日、天候不順と飢饉（天明の飢饉）につき、厳島社で祈禱を行う。
- 1788（天明8）
5月29日、大風により滝宮・菩提院・棚守屋敷

- など破損する。
6月16日、広島藩、天候不順につき厳島社で祈祷する。
6月17-19日、菅茶山来島する。
9月17・18日、司馬江漢、長崎への遊学の途中に春木南湖と来島する。
- 1789(寛政1)
5月8日、大浦より出火、10日まで大江・大川口まで焼ける。
閏6月8日、幕府巡見使一行来島する。
- 1791(寛政3)
6月、誓真(西大工町木屋政次郎)藩より表彰される。
- 1794(寛政6)
長沢蘆雪、宮島で「厳島八景図」を描く。
- 1795(寛政7)
6月、管絃祭の御供船の制限を緩和する。
広島の日年寄、厳島社へ銅製狛犬2基を寄進する。
- 1796(寛政8)
6月、城下広島で大洪水。同月8日、厳島社で水難除息の祈祷を行い、神符を各町に配布する。
また管絃祭に御供船を出すことを禁止する。
- 1799(寛政11)
3月13日、大鳥居再建のため、広島町奉行寄付金を募る。
9月22日、3日間神能。上方より狂言方として大蔵八右衛門来演する。
- 1800(寛政12)
閏4月14日、養父崎より出火、翌日まで青海苔浦・大江を延焼する。
- 1801(享和1)
3月27日、大鳥居再建し、落成する(榎は和歌山県牟婁郡、広島市宇品、竹原市、呉市などから運ぶ)。
- 1802(享和2)
十返舎一九、「東海道中膝栗毛」を発表する。
- 1806(文化3)
3月、伊能忠敬ら測量のため来島。大願寺を本

- 陣として、浦々を調査する。
- 1808(文化5)
閏6月26日、地藏尊が千畳閣に出現したといううわさが広まり騒動となる。
- 1809(文化6)
恵蘇郡木屋原村で白鹿を捕獲、第8代藩主浅野齊賢この鹿を厳島に放す。
- 1810(文化7)
3月、神能。江戸より高安彦太郎来演する。
- 1814(文化11)
3月6・7日、野田泉光院、諸国霊跡巡拝の旅の途中来島する。(「日本九峰修行日記」)
- 1819(文政2)
2月、藩主浅野齊賢、厳島社に絵馬(狩野洞白画)を奉納する。
- 1820(文政3)
11月14日、城下東柳町の高屋福蔵ら、阿品(廿日市市阿品)沖で厳島渡海船を救助する。
- 1822(文政5)
10月、広島地方でコレラ流行し、厳島神社で祈祷して、領内に霊符を配布する。
- 1823(文政6)
6月14日、藩主の御座船「宮島丸」完成する。
- 1825(文政8)
頼杏坪ら、「芸藩通志」159巻を完成する。
- 1830(天保1)
8月、藩主齊賢病氣につき、厳島社で快復祈祷を行う。
- 1832(天保3)
10月、名山蔵(文庫)の上棟を行う。
『厳島絵馬鑑』を開版する。
- 1833(天保4)
5月1日、第9代藩主浅野齊肅、厳島社に大絵馬「雲龍・野馬」(狩野探信画)を奉納する。
- 1836(天保7)
6月12日、藩内で大洪水につき、厳島社で祈祷を行う。
- 1842(天保13)
『芸州厳島図会』を板行する。
- 1850(嘉永3)

- 6月4日、大洪水につき天気回復を厳島社で祈祷する。
8月7日、大風・高潮により大鳥居が傾き、額は阿多田島(大竹市)あたりに漂流する。
- 1852(嘉永5)
6月15日、管絃祭に向かう御供船を見物する群衆のため、広島城下の京橋が落ちる。
- 1853(嘉永6)
2月3・4日、吉田松陰、来島する。(「癸丑遊歴日記」)
6月、宮島大芝居に、市川海老蔵来演する。
11月27日、川路聖謨、プチャーチンとの交渉のため長崎に行く途中来島する。(「長崎日記」)
- 1855(安政2)
5月19-21日、清川八郎、伊勢詣での途中に来島する。(「西遊草」)
- 1858(安政5)
8月19日、コレラ大流行につき、厳島社で祈祷し、霊符を配布する。
- 1859(安政6)
9月25日、河井継之助、遊学の途中に来島する。(「塵壺」)
- 1862(文久2)
広島藩士、飯浦(入浜)に砲台を築く。
- 1863(文久3)
3月13日、攘夷決定につき、厳島社で第11代藩主浅野長訓の武運長久を祈祷する。
- 1865(慶応1)
8月2-7日、桃節山、九州への旅の途中に来島する。(「西遊日記」)
- 1866(慶応2)
9月、勝海舟、大願寺で長州藩使者広沢真臣らと休戦会談をする。
- 1867(慶応3)
6月2日、厳島神社を勅願所とする。
- 1868(明治1)
3月17日、新政府、諸神社に対し神社付属の僧侶の還俗を命じる。
3月28日、仏像を神体とすることを禁止し、社前の仏像・仏具を取除かせる。(神仏判然令)

- 1871(明治4)
6月、厳島神社、国幣中社となる。
- 1872(明治5)
5月14日、厳島に戸長を置く。
6月29日、広島県、千畳閣で博覧会を開催し、厳島の珍品・重宝を集め、各地の産物の展覧を行う。
11月、棚守など厳島神社の従来の神職名が廃止され、新たに宮司などの神職が設けられ、浅野忠が宮司となる。
- 1873(明治6)
4月6日、大蔵省、厳島公園の設置を許可する。
4月、厳島神社荒胡子神社拝殿を校舎にして「勤心舎」と称し、経費は神社が支弁して、授業をはじめる。宮島の近代教育の始まり。
- 1874(明治7)
2月3日、厳島神社の本殿の屋根の修理を始める。この修理で、従来はなかった千木・勝男木を上げる。
5月、教育振興のために校舎を拡大し公費で経営することとし、校舎を滝野坂元延方に移転、「蒙養館」と改称する。
9月28日、広島県、厳島神社周辺地域を「厳島公園」とし、公園取扱条令を定める。
- 1875(明治8)
7月18日、厳島神社の大鳥居の再建落成する(榎は宮崎県西都市、香川県丸亀市から運ぶ)。
この年、御垣ヶ原(現在の厳島神社社務所の地)に芝居小屋明神座ができる。
- 1876(明治9)
4月、蒙養館、「厳島学校」と改称する。
春、京都博覧会で、厳島神社の古文書を展示する。
- 1877(明治10)
1月11日、厳島学校、南町神泉寺境内に移転する。
5月17日、第1回内国勲業博覧会に出品する、宮島の宮島彫刻などを広島で公開する。
8月21日、第1回内国勲業博覧会に、宮島細工を出品する。

- 8月26日、大風襲来で、御山神社を始め町内の神社はほとんど破損する。この時厳島神社では、右楽房が倒壊し、平舞台などに石を並べて社殿の浮上を防いだ。
- 10月5日、厳島学校、新町胡子屋方に移転する。
- 1878（明治11）
- 5月、厳島神社、前年8月の大風による破損社殿の修繕願いを、内務卿伊藤博文に提出する。
- 6月30日、杉之浦開拓地で地鎮祭行われる。
- 8月23日、弥七ヶ谷開拓地で地鎮祭が行われる。
- 1879（明治12）
- 1月31日、鹿保護のため、県令で全島禁猟となる。
- 9月10日、厳島学校、大町に校舎を新築・移転し、教育令により「厳島公立厳島小学校」と改称する。
- 1880（明治13）
- この年から、神仏分離後廃止されていた厳島神社延年祭が形を変え、現在の玉取祭として復活し以後毎年行われるようになる。
- 1881（明治14）
- 4月15日、厳島神社本社の大修繕が終わり、元龜2年以来的正遷宮式を行う。
- 5月3日、松浦武四郎、厳島神社で宝物を拝見する。
- 1884（明治17）
- 10月、松浦武四郎、天神社に「聖跡25拝」の石碑を奉納する。
- 1885（明治18）
- 7月31日、明治天皇、三田尻より大聖院に到着。翌日厳島神社参拝後、地御前村阿品に渡り陸路広島へ。
- 1886（明治19）
- コレラ流行のため、7月18日の厳島神社管絃祭が延期される。
- 1887（明治20）
- 4月、宮島物産組合設立される。
- 1888（明治21）

- 1月、弥山求聞持堂焼失する。
- 12月10日、大聖院焼失する。
- 1889（明治22）
- 4月1日、町村制施行により、厳島町となる。
- 1890（明治23）
- 4月1日、厳島公立厳島小学校、「厳島尋常小学校」と改称する。
- 1891（明治24）
- 4月15日、厳島尋常小学校、中之町に校舎を新築し、移転する。
- 9月14日、大風と雨により、厳島神社の諸社30カ所破損する。11月から修理が始まり、翌年5月に落成する。
- 1892（明治25）
- 4月6日、厳島神社御鎮座1300年祭が行われる。
- 1893（明治26）
- 8月1日、大阪商船赤馬関線、尼崎汽船、厳島に定期寄港を始める。以後大阪商船・尼崎汽船が交互に寄港するようになる。
- 1895（明治28）
- 1月、挽き物（しゃもじ・ロクロ製品）従業者、厳島振興会を結成する。
- 4月3日、宮島の卸売・小売業者、宮島物産営業組合を結成する。
- 5月16日、広島賛同協会の事業の一環として、厳島神社裏（現在の社務所の地）に厳島神社宝物陳列館ができる。
- 7月8日、広島予備病院厳島転地療養所が開設され、千畳閣・光明院・大願寺等に戦傷者が収容される。
- 1896（明治29）
- 4月10日、夏目漱石・高浜虚子来島。
- 1897（明治30）
- 1月21日、広島一厳島間に電信開通する。
- 4月、森林法が公布され、島内の山林が国有林となる。
- 同月より、砲台建設のため、包ヶ浦一室浜間に軍用道路を作りはじめる。
- 6月、厳島栈橋待合所営業を開始する。

- 9月25日、山陽鉄道が徳山まで開通し、「宮島」駅（現在の「宮島口」）が設けられる。
- 12月28日、古社寺保存法（6月10日公布）により初の指定告示（国宝155件・特別保護建造物44件）。「平家納経」が国宝に認定される。
- 1898（明治31）
- 3月29日、鷹之巣浦が要塞地となり砲台が建設されるにつき、鷹之巣浦神社が入浜に移転する。
- 5月8日、千畳閣で、豊太閤300年祭を行う。
- 7月、島の北端聖崎で真珠採取のため貝を養殖する。
- 8月16日、広島幼年学校生徒、大願寺を宿にして水泳練習をする。
- 11月28日、厳島尋常小学校、西松原で運動会を行う。
- 1899（明治32）
- 2月12～19日、岡倉天心ら古社寺保存のため来島し、厳島神社・大願寺・光明院で調査をする。
- 4月1日、厳島尋常小学校に高等科が併置され、「厳島尋常高等小学校」と改称する。
- 3月、室浜砲台竣工する。
- 4月5日、厳島神社本社・大鳥居以下一連の社殿、特別保護建造物となる。
- 6月10日、光明院で厳島保存会を開き、伊藤博文が条約改正と外国人の増加について演説する。
- 7月29日、伊東忠太、厳島神社の建造物を調査する。
- 8月1日、厳島神社・大願寺・光明院の絵画・書蹟・彫刻・美術工芸品など35点、国宝に指定される。
- 同日、芸備貯蓄銀行厳島支店開設される。
- 8月1日、ベルツ博士出発する（7月31日より白雲洞に滞在）。
- 8月11日、要塞地帯法により、厳島周辺の測量・撮影・漁業が規制される。
- 10月25日、皇太子行啓。
- 11月、県議会会都部会で鞆公園・厳島公園拡張に関する意見書が可決される。
- 1900（明治33）
- 3月、鷹之巣高・低砲台が竣工する。
- 8月、北清事変の帰還戦傷者、大願寺・光明院・存光寺・劇場等町内各所で療養する。
- 7月28日、海岸に暴風標・警報信号標を設置する。
- 10月1日、宮島渡航会社が開業する。
- 1901（明治34）
- 1月28日、厳島神社、本社本殿・幣殿・拝殿・祓殿の解体修理が始まる。この修理で、明治7年に上げられた千木・勝男木を取り除き、旧来の形に復元する。竣工は、明治35年10月。以後順次、1916（大正5）まで各社殿の修理が行われ、明治大正大修理と呼ばれる。
- 7月7日、海軍兵学校生徒600名、大元公園で運動会を行う。
- 7月13日、厳島神社保存会が設立される。
- 8月15日、千畳閣で、北清事変第5師団凱旋祝賀会を行う。
- 1902（明治35）
- 7月13日、大野瀬戸の亀石灯台点灯する。
- 8月、鷹之巣高砲台より海上に実弾射撃演習をする（19～9月1日）。
- 1903（明治36）
- 3月、山陽鉄道、宮島渡航会社宮島口―厳島航路を買収し、厳島栈橋が営業を開始する。
- 5月、長岡安平、厳島公園設計のため、来島し調査する。
- 7月28日、五日市より、聖崎・杉之浦沖へ射撃演習をする。
- 9月、広島湾要塞砲兵隊、宮島砲台で演習を行う（17～26日）。
- 10月1日、厳島神社正遷宮式を執行、10日から11月9日まで大祭が行われる。
- 1904（明治37）
- 1月、室浜・大江・須屋浦・御床浦ほか沿岸各所で、蛤・アサリ・カキ養殖等の漁業権が登録される。
- 2月23日、厳島神社で、対ロシア宣戦報告祭が

行われ、県知事奉告使として来島する。
7月、長岡安平、厳島公園設計書を作成し、広島県知事に提出する。

1905 (明治38)
4月6日、御笠浜に石の大鳥居が落成する。
6月2日、芸予地震、M7.1。
11月4日、大元公園で、英国艦隊歓迎園遊会が開かれる。
12月15日、第1師団輸卒隊、聖崎沖で遭難。溺死者10名。

1906 (明治39)
3月、広島藤谷口〇堂、絵葉書「宮島名勝」を発売する。
11月24日、伊藤博文らの尽力により、弥山登山道の大修繕工事が竣工し、滝の宮で祝賀会が行われる。

1907 (明治40)
6月、山陽貯蓄銀行厳島支店が開業する。
12月、大元公園内にミカドホテル宮島支店が落成する。

1908 (明治41)
1月26日、広島一厳島間電話開通する。
3月13日、ベルツ博士来島する。
7月、厳島公園経営委員、公園拡張のための調査を行う。
8月14日、コッホ博士、北里柴三郎等と来島する。

1910 (明治43)
1月1日、森鷗外来島。
2月23日、厳島尋常高等小学校、長浜公園地に校舎を新築し移転する。
7月12-21日、広島高等師範学校水泳部、長浜で水泳練習をする。宿舍宝寿院、小学校校庭にテニスコートを作る。
8月23日、厳島軽便鉄道株式会社、大元公園～弥山間の鉄道敷設を申請する。翌年6月本免許が交付されるが、12 (明治45) 年5月宮島鉄道株式会社と改称し、18 (大正7) 年会社は解散する。
『厳島誌』(重田定一著、東京金港堂) 発刊さ

れる。

1911 (明治44)
2月、厳島神社、官幣中社に昇格する。
5月、厳島発電所開業式が行われる。(電灯数1300)
11月、厳島公園内の撮影制限が一部解除され、広島湾要塞司令官の許可が不要となり、役場・警察署への届け出制になる。

1912 (明治45・大正1)
1月12日、宮島ホテルが設立される。
6月13日、鏡池のタンチョウツルの卵1個が孵化する。
7月31日、厳島神社管絃祭、天皇の病気につき中止される。
10月、樺太の鹿5頭、宮内省より下賜される。

1913 (大正2)
4月12日、本多静六、公園設計のために来島し、島内各所を調査する。
4月、浜之町埋め立て地の売却が行われる。
7月1日、杉之浦海水浴場が開設される。
7月8日、ベルリン大学教授エングラー博士来島し、白雲洞に泊まり弥山や海岸の植物を採取する。
9月、商船棧橋設置のための埋め立て工事始まる。

1914 (大正3)
2月19日、鹿の密猟で、逮捕者が出る。
3月、周防銀行厳島支店・岩谷銀行が休業する。
8月、村上銀行厳島支店が開設される。
11月28日、厳島公園改良案、県会で可決する。4年度より3カ年継続で、厳島公園改良工事が進められる。
12月5日、地御前神社、厳島神社摂社に復帰する。

1915 (大正4)
4月1日、鉄道院、厳島巡遊船を開始する。
12月、宮島駅一宮島棧橋、厳島棧橋一千畳閣下までの道が、県道に編入される。

1916 (大正5)

5月4日、厳島信用組合(現広島信用金庫)が設立される。
10月1日、広島銀行、村上銀行の債権・債務を継承し、厳島支店を開設する。

1917 (大正6)
2月、広島測候所の依頼により、尋常高等小学校で、気象観測を始める。
5月27日、大隈重信、厳島神社で演説をする。
7月25日、尋常高等小学校で、教員研修会が開かれ、史跡名勝天然記念物保存協会長徳川頼倫・東京帝国大学教授関野貞など講演する。
7月29日、宮島ホテル新館(設計者ヤン・レツル)落成する。
10月30日、彫り物従業者、宮島細工組合を結成する。
11月、宮島物産組合主催第1回広島県工芸品評会が開催され、褒賞授与式が光明院で行われる。
同月、大聖院下の弥山登山道改修記念碑(末松謙澄撰文)の除幕行われる。

1919 (大正8)
10月12日、厳島神社明治大正大修理完成報告祭が行われる。

1921 (大正10)
7月、厳島町商業補習学校が開校する。
11月1日、内務省の認可を受け、厳島神社保存会が厳島保勝会となる。

1922 (大正11)
5月6日、イギリス皇太子来島。
10月30日、厳島鋼索道株式会社発起人、弥山登山ケーブル開設を計画し、鉄道大臣に経営免許の申請する。25 (大正14) 年却下。
12月20日、アインシュタイン来島。弥山に登る。厳島神社、『厳島記念講演』を出版。

1923 (大正12)
3月7日、厳島全島が、史蹟名勝天然記念物保存法(1919公布)により、史蹟・名勝「厳島」に指定される(同時に、「帝釈峡」も名勝に指定)。

1925 (大正14)

11月、田中親美・益田孝らによる平家納経の副本が完成し、東京帝室博物館表慶館で、原本と副本が対照して展示される。

1926 (大正15・昭和1)
7月、小学校内に、町立青年訓練所が開設される。
同月15日、広島瓦斯電軌(現広島電鉄)宮島線西広島～新宮島(現阿品)間が開通する。
8月1日、広島湾要塞が廃止される。
同日、第1回広島・山口両県下写真競技会が開催される。
11月、旧広島湾要塞の土地引き継ぎが完了する。包ヶ浦・鷹之巣は広島兵器支廠用地に、室浜は内務省用地になる。

1927 (昭和2)
12月19日、各組合が統一し、宮島細工同業組合ができる。

1929 (昭和4)
7月1日、国宝保存法が施行され(古社寺保存法は廃止)、従来の特別保護建造物は、国宝と称されるようになる。
12月17日、弥山北麓・厳島神社の後背地一帯が、史蹟名勝天然記念物保存法により、天然記念物「瀨山原始林」に指定される。

1930 (昭和5)
8月10日、宮島細工同業組合設立する。
12月14日、厳島国立公園建設期成同盟会発会式が、厳島小学校で行われる。

1931 (昭和6)
1月、松大旅客運送(現松大観光汽船)、定期航路による運航をはじめる。
2月1日、広島瓦斯電軌宮島線、新宮島～宮島口間開通する(現在の広島電鉄宮島線の全通)。
4月1日、国立公園法が公布される。(瀬戸内海国立公園として備讃瀬戸が対象地域となるが、厳島は国立公園にならず)
7月19日、呉市で開催された第12回全国少年野球大会山陽中部予選で、厳島尋常高等小学校、呉高等小学校を破り優勝し、京都での全国

- 大会に出場を決める。
10月1日、国立公園法が施行される。
11月21日、広島県会で、瀬戸内海国立公園区域に鞆・尾道・厳島を包含し、拡張する旨の見解書を可決する。
- 1932(昭和7)
6月、厳島国立公園編入期成同盟会が結成される。
- 1934(昭和9)
3月16日、寒霞渓・屋島・鷲羽山・鞆の浦・沼隈周辺の備讃瀬戸地域が、瀬戸内海国立公園として雲仙(現・雲仙天草)・霧島(現・霧島屋久)とともにわが国初の国立公園に指定される。
4月7日、厳島神社宝物館が開館する。
4月23日、厳島港、指定港に編入される。
- 1935(昭和10)
4月、大野村太鼓ヶ浜宮島航空研究所に付属航空学校を設置する(有料で水上飛行機による、宮島一周遊覧飛行が行われる)。
4月24日、満州国皇帝来島。
7月1日、厳島青年学校が設立される(青年訓練所と合併、厳島町商業補習学校は閉校となる)。
11月5日、広島県、遊覧地写真撮影取締規則を制定する。
- 1937(昭和12)
3月、宮島観光協会発足
5月23日、ヘレン・ケラー女史来島(宿、宮島ホテル)。
9月9日、誓真大徳頌徳碑(岡千仞撰文)ができる。
- 1938(昭和13)
6月7日、厳島全町域、厳島都市計画風致地区に指定される。
11月、大阪商船宮島遊覧線、配船難につき廃止される。
- 1939(昭和14)
4月3日、第1次昭和切手「厳島神社(30銭)」発行される。

- 1940(昭和15)
10月、青年学校生徒、弥山監視哨で監視するようになる。
同月、駅弁、尾道の鯛飯・宮島のかき飯が廃止される。
- 1941(昭和16)
4月、厳島尋常小学校、厳島国民学校と改称する。
12月15日、厳島神社などで、米英宣戦布告奉告、戦勝祈願の臨時大祭が行われる。
- 1942(昭和17)
2月18日、第1次戦捷祝賀会が開催される。
3月31日、省営厳島巡遊船の運航が廃止される。
- 1943(昭和18)
2月22日、厳島国有林経営方策協議会で、軍事に役立てる目的で厳島国有林の伐採が決定される。
- 1944(昭和19)
7月21日、宮島電鉄宮島線廿日市～宮島間口のレールなどが取り除かれ、単線運行となる。
- 1945(昭和20)
5月16日、厳島国民学校児童、塩田や多々良瀨農場で勤労奉仕作業を行う。
7月13日、厳島国民学校5年生以上の児童、運動場を開墾する。
8月8日、島内各寺院に、戦災避難者収容所が出来る。丸山定夫、宮島で死去する。
9月17日、枕崎台風襲来で、紅葉谷川に土石流発生し、厳島神社社殿に被害を与える。(柳田邦男『空白の天気図』)この復旧工事を契機に、昭和24年から昭和の大修理工事始まる。
- 1946(昭和21)
11月、広島県部落解放委員会結成大会が開かれる。
- 1947(昭和22)
3月、災害復旧の土砂の搬出作業が始まる。この土砂を運んで、西松原を築出して延長し、有の浦・大元浦を埋め立てて、貴賓道路・水族館の敷地が出来る。

- 4月1日、厳島国民学校を厳島小学校と改称し、厳島中学校が開設される。
4月4日、初の公選町長が就任する。
12月6日、昭和天皇行幸。
- 1948(昭和23)
10月13日、ヘレン・ケラー女史来島。
同月17日、厳島神社、御鎮座1350年祭が行われる。
- 1949(昭和24)
11月22日、鹿の保護に関する条例を公布し、島内及び周辺海面でのシカの殺傷を禁止する。
- 1950(昭和25)
5月、厳島全島、瀬戸内海国立公園に編入される。
7月、広島電鉄宮島線廿日市～宮島間、複線運行に復帰する。
8月29日、文化財保護法の施行により、従来^の国宝はすべて重要文化財となり、以後順次特に貴重なものは改めて国宝に指定されるようになる。(従来の国宝保存法・史蹟名勝天然記念物保存法は廃止)。
9月24日、キジア台風の高潮により、厳島神社各建物被害を受ける。
11月3日、厳島町が、宮島町と改名される。厳島小学校・厳島中学校、それぞれ宮島小学校・宮島中学校と改称する。
- 1951(昭和26)
5月、大鳥居、楠を福岡・佐賀県に求め根継ぎ工事が行われる。
10月14日、ルース台風により、厳島神社各社殿・七浦末社破損する。
10月、第6回国民体育大会が広島県内で開催され、包ヶ浦がヨット競技の会場となる。
- 1952(昭和27)
3月、清盛祭始まる。
8月27日、大元公園の旧宮島ホテルが火災により焼失する。
11月、厳島全島、文化財保護法による特別史跡及び特別名勝「厳島」に指定される。

- 1954(昭和29)
3月20日、清盛神社が、西松原に創建される。
6月10日、宮島町など佐伯郡内5か町村、大野町鼓が浜で競艇場の起工式を行う。
11月1日、競艇場完成し、初のボートレースが開催される。
- 1955(昭和30)
4月、弥山山頂に展望台が建設される。
- 1956(昭和31)
5月7日、厳島神社、本社の修理が完成し、遷宮が行われる。
8月21日、連合国駐留軍による大元神社境内地の接収が解除される。
- 1957(昭和32)
4月、広島電鉄、松大観光船を買収する。厳島神社建造物昭和の大修理工事竣工する。『岩波写真文庫71 宮島』(岩波書店)が発刊される。
10月1日、自然公園法の施行(国立公園法は廃止)により、従来の国立公園及び準ずる区域は国立公園・国定公園と規定される。
- 1958(昭和33)
『厳島神社昭和修理総合報告書』が刊行される。
- 1959(昭和34)
3月31日、宮島ロープウェイ竣工する。
5月22日、大元公園に、広島県立宮島水族館が開館する。
初夏、エドモンド・ブランデン来島し、宮島と題する詩を読む。
この年、平家納経、葉草唄品の見返が安田靉彦によって修復される。
- 1960(昭和35)
5月、簡易水道施設が完成する。
11月15日、日本三景切手「宮島の厳島神社(10円)」が発行される。
- 1962(昭和37)
8月、小豆島よりニホンザル47頭を移入し、獅子岩に日本モンキーセンター宮島支所が開設される。

- 11月1日、大元公園内宮島ホテル跡に、国民宿舎宮島ロッジ開館する。(現在の「国民宿舎みやじま杜の宿」)
- 1964(昭和39)
7月10日、旧室浜砲台跡地に、広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所発足する。
9月20日、東京オリンピックの聖火、宮島口を通過し広島市に入る。
10月1日、山陽本線広島～小郡間電化完成。
- 1965(昭和40)
3月、厳島神社、宝物収蔵庫が完成する。
- 1967(昭和42)
4月、宮島水族館が町に移管され、町営になる。
7月、『秘宝 厳島』(講談社)が刊行される。
8月、塔の岡トンネルが開通する。
12月、ダイヤル式即時通話開通する。
- 1968(昭和43)
3月5日、宮島の自然と文化を守る会が結成される。
12月20日、宮島町文化財保護条例が公布され、翌年より宮島町文化財審議会が設けられる。
- 1969(昭和44)
1月、宮島町役場新庁舎(現在の廿日市市宮島支所)が落成する。
6月、町営タクシーが営業を始める。
7月、宮島小学校にプールが出来る。
- 1970(昭和45)
4月、テレビ共聴アンテナが完成し、町内の家々の屋根からテレビアンテナがなくなる。
10月、広別汽船の広島～別府航路にフェリー就航する。
- 1972(昭和47)
3月、『厳島民俗資料緊急調査報告書』が刊行される。
5月28日、宮島の自然と文化財を守る会が結成される。
10月、京都国立博物館で、特別展「平家納経と厳島の秘宝」が開催される。
NHK大河ドラマ「新平家物語」(仲代達矢主

- 演)が放映される。
- 1973(昭和48)
6月、マツクイムシ防除のため薬剤を空中散布する。
この年、アカマツの枯損木約21万本を伐採する。
- 1974(昭和49)
4月、国道2号線西広島バイパスが地御前まで全通する。
4月26日、町立宮島歴史民俗資料館が開館する。(調査研究報告として、「年報」「宮島の歴史と民俗」を発行する)
- 1975(昭和50)
9月27日、宮島町歴史的景観保存条例を公布。
- 1975(昭和50)
3月、『総合学術調査研究報告 厳島の自然』が刊行される。
3月、『特別史跡及び特別名勝厳島 保存管理計画策定報告書』が作成される。
3月、『宮島歌舞伎年代記』(薄田太郎・純一郎著、国書刊行会)が発行される。
- 1976(昭和51)
2月、港町・胡町沖を埋め立て、国鉄・松大汽船の棧橋を統合した宮島棧橋が竣工する。
3月、『広島県史 古代・中世資料「(厳島文書1)」』が刊行される。
『平家納経の研究』(小松茂美著、講談社)が発行される。
- 1977(昭和52)
1月、第2次国宝切手「平家納経(100円)」が発行される。
- 1978(昭和53)
1月21日、林家住宅、国指定重要文化財建造物となる。
3月、『広島県史 古代・中世資料「(厳島文書2)」』が刊行される。
7月、皇太子ご夫妻が来島され、第20回自然公園大会が包ヶ浦で開催される。
- 1979(昭和54)
4月1日、宮島町博物館協会が発会する。(島内の博物館施設が連携し、調査研究の成果とし

- て会報「あき一宮島の自然と文化」を発行する)。
- 1980(昭和55)
3月、町立宮島町伝統産業会館が開館する。
5月、町立宮島幼稚園が開園する。
7月14日、都市公園法により厳島公園は宮島公園となる。
- 1982(昭和57)
11月、伝統的工芸品産業の振興に関する法律(伝産法)により、挽き物・くり物・彫刻が「宮島細工」として伝統的工芸品に指定される。
- 1984(昭和59)
3月21日、島の西部下谷から出火し、南西部の山林259haを焼失する。青海苔浦が消火基地となり、消火剤を空中より散布する。
4月、宮島棧橋一包ヶ浦間定期バスの運行が始まる。
- 1985(昭和60)
10月、宮島水族館のラッコ館完成し、ラッコの公開が始まる。
- 1986(昭和61)
1月、『安芸厳島社』(松岡久人著、法蔵館)が発行される。
- 1987(昭和62)
3月、『神道大系 神社編40 厳島』(河合正治編、神道大系編纂委員会)が発行される。
4月1日、国鉄が分割民営化され、国鉄宮島航路はJR西日本宮島航路となる。
- 1988(昭和63)
6月23日、第3次国宝切手「厳島神社(60円)」が発行される。
9月、有の浦の高潮対策工事が完成し、埋め込み式の防潮堤(有之浦陸間)ができる。
同月、電線類の地中化工事が始まり、以後順次町内から電線が見えなくなる。
- 1989(平成1)
4月、町民憲章、町の花「アセビ」、町の木「モミジ」町の鳥「ヤマガラ」を制定する。
7月、厳島神社社殿のライトアップ、石灯籠の点灯が始まる(ソノ・エ・ルミエール宮島)。
7月7日、ふるさと切手「'89海と島の博覧会・

- ひろしま記念」2種連刷(62円)が発行される。
- 1991(平成3)
9月27日、夕刻台風19号襲来し、弥山山中の諸堂社・樹木が倒壊し、厳島神社能舞台・左楽房が全壊する。
- 1992(平成4)
3月、『宮島町史 資料編・地誌紀行1』が発行される。
10月1日、島の景観を1000年後の世代に伝えることをめざして、宮島千年委員会が発会する。
- 1993(平成5)
12月、『宮島町史 資料編・石造物』が発行される。
- 1994(平成6)
4月、厳島神社能舞台の修復工事が終わる。
6月11日、千年委員会、楠の苗木を頒布し各地の人に育ててもらう。(数百年後の厳島神社大鳥居の用材するため)
10月2・3日、厳島神社御鎮座1400年大祭が行われる。
- 1995(平成7)
5月19日、国土緑化運動切手「モミジと宮島(50円)」が発行される。
8月8日、前ドイツ大統領ヴァイツゼッカー氏来島。
9月21日、厳島神社及びその周辺地域が「厳島神社」として、広島市の「原爆ドーム」とともに、ユネスコの世界遺産条約に登録推薦が決まる。
- 1996(平成8)
4月27日、JR連絡船の新造船「みせん丸」が就航する。
10月5日、第51回国民体育大会炬火「宮島の火」の採火式が御笠浜で行われ、県西部の炬火リレーが始まる。
10月15・16日、第51回国民体育大会が広島県内で開催され、宮島中学校体育館が成年男子剣道競技の会場となる。
11月1日、棧橋一包ヶ浦間の定期便バスが廃止され、棧橋一包ヶ浦・棧橋一水族館間の定期乗合ジャンボタクシー「メイプルライナー」が運行

- し始める。
12月6日、メキシコのメリダ市で開かれたユネスコの第20回世界遺産委員会で、「原爆ドーム」と「厳島神社」の世界遺産登録が決定される。
12月20日、厳島神社宝物館・国指定登録文化財になる。
- 1997(平成9)
- 1月5日、NHKテレビ、大河ドラマ「毛利元就」(主演 中村橋之助)の放映が始まる。
4月1日、宮島町、「過疎地域」に指定される。
7月6日、世界遺産センター所長、ドロステ氏来島。
6月、『宮島町史 特論編・建築』が刊行される。
10月、広島県立美術館で、厳島神社世界遺産登録記念展「平家納経と厳島の宝物」が開催される。
- 1998(平成10)
- 7月17日、ふるさと切手「瀬戸の海(80円)」が発行される。
8月、1960年10月17日にアメリカ・パロマー天文台でトム・ゲーレルス博士が撮影した写真から、オランダのライデン天文台のファンハウテン博士夫妻によって発見された小惑星に、厳島神社が世界遺産に登録されたことにちなみ、「イツクシマ」と命名される。
- 1999(平成11)
- 9月23日、台風18号襲来し、厳島神社門客神社全壊する。
- 2000(平成12)
- 5月1日、ふるさと切手「中国地方の自然～花」(50円)が発行される。
- 2001(平成13)
- 3月23日、郵便切手、世界遺産シリーズ第2集「厳島神社」が発行される。
建造物、舞楽面など10種(80円)
3月24日、芸予地震(震源地蒲刈町沖、M6.4)により、厳島神社石燈籠・玉垣などが倒壊する。
8月1日、国連切手「世界遺産－日本」(厳島神社)が発行される。
- 8月21日、杉之浦の宮島国有林(2,394ha)、厳島神社等の修復に必要な松皮・木材などを供給するため、「世界文化遺産貢献の森林」に認定される。
10月、かおり風景百選(環境省)に、「厳島神社潮のかおり」が選定される。
- 2003(平成15)
- 4月、厳島神社大鳥居の材料となる楠を育成するために、包ヶ浦に約0.8haの「悠久の森」を設定する。
- 2004(平成16)
- 3月13日、小泉純一郎総理大臣来島。
9月7日、台風18号襲来し、厳島神社左楽房全壊、祓殿屋根など被害を受ける。
11月8日、宮島歴史民俗資料館の主屋・蔵、国指定登録文化財になる。
- 2005(平成17)
- 1月9日、NHKテレビ、大河ドラマ「義経」(主演 滝沢秀明)の放映が始まる。
5月5日、霊火堂焼失
7月23日、ウクライナ ユーシチエンコ大統領夫妻が来島。
9月6日、台風14号が襲来し、白糸川上流で土石流が発生し、大きな被害を受けた。
11月3日、宮島町、大野町とともに廿日市市に合併する。
- 2006(平成18)
- 4月2日、大願寺不動明王開眼式
5月1日、ふるさと切手「もみじと宮島」(50円)が発行される。
7月17日、霊火堂再建
10月23日、皇太子徳仁親王殿下行啓
11月3～10日、ダライ・ラマ法王滞在
- 2007(平成19)
- 4月、大鳥居扁額修理完了
5月18日、フレーム切手(Pスタンプ)「きてみんさい広島」が発行される。
9月、チリ共和国 ミシエル・バチエレ大統領来島
10月22日、大相撲宮島場所開催

参考文献（順不同）

- | | | | |
|------------------------|--------------------------------|------------------------|-------------------|
| 『厳島道芝記』1971 | 宮島町 | 『日本歴史地名大系 35』1982 | 平凡社 |
| 『芸州厳島函会』1973 | 〃 | 『はつかいちロマンのこみち』1990 | 廿日市市郷土文化研究会 |
| 『棚守房顕覚書』1971 | 〃 | 『広島県民俗資料第8集』1977 | 村岡浅夫編 ひろしま・みんぞくの会 |
| 『宮島町史 特論編・建築』1997 | 〃 | 『広島県民俗資料第6集・伝説』 | 村岡浅夫編 ひろしま・みんぞくの会 |
| 『宮島町史 石造物』1993 | 〃 | 『厳島神社国宝展』2005 | 奈良国立博物館編 |
| 『宮島町史 地誌・紀行』1992 | 〃 | 『広島県文化財解説目録』 | 広島県教育委員会編 |
| 『宮島の野鳥』1999 | 〃 | 『廿日市の歴史探訪 2・3』1999 | 石田米孝著 |
| 『宮島の自然 地形・地質編』1994 | 〃 | 『図説 平家納経』2005 | 小松茂美著 戎光祥出版 |
| 『宮島』1996 | 〃 | 『広島県神社誌』 | 広島県神社庁 |
| 「広報 みやじま」1992～1993 | 〃 | 『季刊 悠久 第68号』 | 悠久事務局 |
| 『いつく島の史蹟・名勝』1980 | 〃 福田直記編著 | 各団体発行のパンフレット及び公式ホームページ | |
| 『弥山登り』2003 | 宮島観光協会 | | |
| 『管絃祭・玉取祭』2003 | 〃 | | |
| 『舞楽』1996 | 〃 | | |
| 『鎮火祭』1996 | 〃 | | |
| 『百手祭』1996 | 〃 | | |
| 『御島巡り式・御鳥喰式』1996 | 〃 | | |
| 『伊都岐島』1976 | 厳島神社社務所編 | | |
| 『厳島信仰事典』2002 | 野坂元良編 戎光祥出版 | | |
| 『広島県民俗資料緊急調査報告書』1972 | 広島県教育委員会編 | | |
| 『図説廿日市・大竹・厳島の歴史』2001 | 郷土出版社 | | |
| 『NHK 中国の盟主 毛利元就』1997 | 日本放送出版協会 | | |
| 『神の島宮島を楽しむ』1996 | 中国新聞社 | | |
| 『世界文化遺産の島 宮島を楽しむ』2006 | 中国新聞社 | | |
| 『ひろしまのおもしろ方言集』2000 | 広島県方言研究同好会著 松林社 | | |
| 『広島県のことば』1998 | 平山輝男編著 明治書院 | | |
| 『広島県の不思議事典』2004 | 松井輝昭・池田明子編 新人物往来社 | | |
| 『日本伝説大系 第10巻』1987 | 立石憲利・村岡克彦・永井彰子・松岡利夫著
みずうみ書房 | | |
| 「広島民俗 62・63号」2004・2005 | 広島民俗学会 | | |
| 『広島県文化百選◎◎』1984・1989 | 中国新聞社 | | |

主に参考にしたホームページ

- | | |
|-----------------|---|
| 広島大学附属宮島自然植物実験所 | http://home.hiroshima-u.ac.jp/miyajima/ |
| (社)宮島観光協会 | http://www.miyajima.or.jp/ |
| 宮島水族館 | http://www.sunameri.jp/index.html |
| 廿日市市観光協会 | http://www.hatsu-navi.jp/ |
| 宮島ロープウェイ | http://miyajima-ropeway.info/ |
| もみまん通 (USACO) | http://www.aa.alpha-net.ne.jp/usaco3/momiman/ |

【執筆・校閲協力者一覧】

(敬称略・順不同)

厳島神社
大聖院
大願寺
宝寿院
徳寿寺
存光寺
光明院

坪田 博美 (広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所助教授)
豊原 源太郎 (元広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所助教授)
向井 誠二 (広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所技術専門職員)
栗原 秀雄 (広島民俗学会常任理事)
岡崎 環 (廿日市市文化スポーツ課文化財担当課長)
菊間 馨 (広島フィールドミュージアム副会長)
呼坂 達夫 (宮島水族館専門員・広島県環境保全アドバイザー)
熊谷 美登 (厳島の野鳥を知る会代表)
秋山 伸隆 (県立広島大学人間文化学部教授)

【写真資料協力】

厳島神社
厳島神社 (菅原院天満宮)
三津厳島神社
淡路島弁財天厳島神社
椎葉厳島神社
社団法人 宮島観光協会
広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所 (向井誠二)
宮島歴史民俗資料館
熊谷美登、向井誠二、新谷孝一、呼坂達夫、菊間馨、菊間みどり、USACO
飯田勝彦、横山忠司、佐藤庸夫、木村勝哉

【協 力】

廿日市市
宮島町商工会
宮島ロープウェー
国際連合広報センター
小林 利幸 (小林一松堂)
割烹 ふじたや
紅葉堂式番屋
宮島御砂焼圭齋窯
便利堂
社団法人 宮島観光協会
宮島水族館
広島民俗学会
伝統工芸士 広川 和男 (宮島の舗 ひろ川)
宮郷 厚樹 (杓子の家)
加藤 宏明 (多加津堂酒店(有))
山根対厳堂
川原厳栄堂
国土地理院

「宮島検定」実行委員会委員

特別顧問 眞野勝弘 (廿日市市長)
野坂元良 (厳島神社宮司)
細川 匡 (廿日市商工会議所会頭)
委員長 原田只文 (廿日市商工会議所副会頭)
委員 福田道憲 (厳島神社禰宜)
沖野照明 (株式会社エル・コ取締役社主)
山本秀人 (中国新聞西広島支局支局長)
院去幹雄 (廿日市市平良公民館長)
岡崎 環 (廿日市市文化スポーツ課文化財担当課長)
白井孝司 (廿日市市観光協会会長)
豊原源太郎 (元広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所助教授)
中村靖富満 (社団法人 宮島観光協会会長)
立花英美 (廿日市市観光課課長)

宮島本（宮島検定）

編 集 廿日市商工会議所 テキスト編集委員会

発 行 廿日市商工会議所

〒 738-0015 廿日市市本町5-1

電話 0829-20-0021 FAX 0829-20-0022

URL <http://www.cci201.or.jp/>

初版 2006年10月 改訂版 2008年8月

印刷・製本 喜勝印刷(株)

- 万一、乱丁・落丁などの不良品がありましたら、廿日市商工会議所までご連絡ください。お取り替えいたします。